

地域とともにある
学校づくりのために

Community School

CS 通信

これまで発行したCS通信や「コミュニティ・スクール」に関する情報はこちらへ
《子ども地域支援グループHP》

北海道 子ども地域支援 検索

北海道教育庁学校教育局義務教育課子ども地域支援グループ

コミュニティ・スクール推進協議会(根室管内・標津町) 7/10(火)

今年度、7～11月にコミュニティ・スクール推進協議会を各管内で実施しています。7月10日、全道最初の協議会を根室管内「標津町生涯学習センターあすばる」を会場に、管内5市町の学校・教育委員会職員、協議会委員等の地域住民の約40名の参加を得て実施しましたので、概要を紹介します。

■ 行政説明・講演 ～地域とともにある学校づくり CSの成果と課題～

北海道CSアドバイザー(伊達市教育委員会教育部参与) 櫻井 貴志 氏

櫻井アドバイザーからは、登別市と伊達市の全校にCS(コミュニティ・スクール)を導入し、学校と地域が連携・協働した取組の一層の充実を図られている御経験を踏まえ、根室管内でのCSの導入や取組の方向性、ビジョンを明確にした取組の成果の例を紹介いただきました。



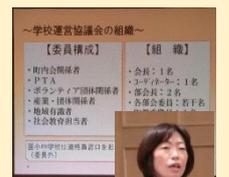
櫻井アドバイザーには他の会場でも講演をお願いしています。

- ・CSは、地域の方々や保護者の方々が、学校運営に参画し、学校を応援する仕組み、ツールであり、設置が目的ではない。それぞれの地域の特徴を生かした取組が必要。
- ・CSは、「地域の学校を応援する仕組み」「地域の子どもたちを地域みんなで育てていく仕組み」「学校、家庭、地域の役割を再確認する仕組み」であり、CSというツールを活用して、どのような学校にするか、どのような地域にするかが大切。
- ・取り組む際には、高い目標達成を目指すのではなく、無理せずこれまでの取組を生かし、現状を生かした目標を設定すること、既存の組織を整理・活用すること。

■ 事例発表 標津町におけるコミュニティ・スクールの導入段階の取組

標津町教育委員会管理課(学校教育担当)係長 水口 有香 氏

平成29年8月、ふるさと標津の特色を活かした地域協働型コミュニティの実現を目指し、標津・川北地区の2つの地域にこども園・小学校・中学校合同の協議会を設置しました。協議会は学校支援に携わってきた方を中心に構成し、学習や体験で興味関心を高める活動や生活習慣を高める活動を考える「サポート部会」、地域の魅力を学ぶ活動やキャリア教育の支援方法を考える「ふるさと部会」を設け、学校運営の基本方針に協力・応援できることを考え実行していくことを目指しています。



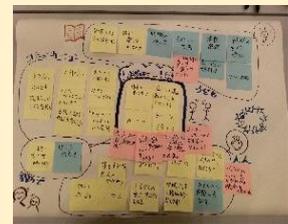
初年度は、各地区の設立会議、2地区合同の研修会を開催し、コミュニティ・スクールの制度説明、模擬熟議等で委員の研修を深め、今年度は、外部講師の参画を得た授業づくり、電子メディアの使用について協議を行っています。協議を通じて、具体的な取組の計画立案や役割分担等の調整の難しさや様々な委員の意見の折り合いを付けていくことの難しさなど、新たな課題も確認されています。取組を開始したばかりですが、「こども園・小中学校・地域みんなが当事者で、みんなで育てる」という熱い思いを取組・成果につなげていくことができるよう、少しずつ少しずつ取組を重ね、継続していきます。

■ 熟議・振り返り

熟議 ～コミュニティ・スクールの効果的な導入と取組の充実～

小グループに分かれ、「子どもたちの未来のために大切にしたいこと」、「そのために必要な仕組み・取組」についての「熟議」を行い、全体で交流しました。

子どもが「自分の世界を広げる」「安心して過ごせる」「自信をもって成長できる」よう、「地域の産業を調べたり、体験したり、人や社会とのつながる機会を増やすこと」「大人が生き生きと働いている、暮らしている姿を見せること」「他から認められる、評価される活動の場を作ること」などの意見が出されました。



「熟議」は課題解決・目標実現に向けた具体的な取組、役割分担等を明確にし、今後の行動につなげるものです。

振り返り ～各学校・地域における取組の方向性の確認～

協議会の最後に、参加者全員で、説明・講話や実践発表、熟議を通じて得た成果や感じた課題を整理し、今後、それぞれが学校・地域で取り組むこと、取り組みたいことを確認し合いました。

「挨拶や声かけなど、自分ができることは進んで行動する」「地域のより多くの人に関われるような活動の場や機会をつくる」「一緒に活動する人をたくさん集めるため、声を掛ける」など、各学校や地域での活動をより一層活発にするため、自分ができる取組を進めたいとの声が聞かれました。

※今後も、各管内で開催されるコミュニティ・スクール推進協議会や全国フォーラムの様子等をお知らせしていきます。

コミュニティ・スクール実践事例集を追加しました②

北海道教育委員会では、これまで3月と6月に、所管するすべての公立学校にコミュニティ・スクールを導入している11の市町村と学校の取組を実践事例集としてまとめ、道教委のホームページに掲載してきたところですが、7月17日に5市町村の事例を追加しました。掲載の市町村と学校では、それぞれの地域と学校の実情を踏まえ、その特色を活かした取組が進められていますので、各地域・学校におけるコミュニティ・スクールの推進や学校と地域の連携・協働の充実に向けた参考にしてください。

<7月17日追加の5市町村・学校の掲載内容> <これまで掲載の11市町村・学校>

- ◆江別市（小学校18校・中学校8校）
～教育のまち・オール江別で子どもを育てる～
【文京台小学校】地域で子どもを守り、育てる
- ◆新篠津村（小学校1校・中学校1校）
～ふるさとを愛する心の育成（郷土愛）～
【新篠津小学校】郷土を愛し、未来を拓く子どもの育成
- ◆下川町（小学校1校・中学校1校）
～下川を愛する子どもたちをつくる～
【下川中学校】家庭・地域と共にある学校に
- ◆中頓別町（小学校1校・中学校1校）
～地域とともにある学校づくり「中頓別」～
【中頓別中学校】地域みんなで「中頓別中の応援団」に！
- ◆中札内村（小学校2校・中学校1校）
～[共育]地域の大人が力を合わせて、子どもたちを共に育てる～
【上札内小学校】大人と子どもが一緒に活動し、学び合う

- ◆栗山町（小3・中1）
【栗山小学校】
- ◆寿都町（小2・中1）
【寿都小学校】
- ◆安平町（子ども園2・小2・中2）
【はやきた子ども園】
- ◆壮瞥町（小2・中1・高1）
【壮瞥高等学校】
- ◆鹿部町（幼1・小1・中1）
【鹿部小学校】
- ◆占冠村（小1・中1・義務教育学校1）
【占冠中央小学校】
- ◆登別市（小8・中5）
【富岸小学校】
- ◆知内町（幼1・小3・中1・高1）
【湯の里小学校】
- ◆東神楽町（小4・中1）
【東聖小学校】
- ◆浦幌町（幼2・小2・中2）
【浦幌小学校】
- ◆上士幌町（認定こども園1・小3・中2）
【上士幌小学校】

引き続き、市町村や学校の取組を実践事例集にまとめ、掲載していく予定です。

コミュニティ・スクール実践事例集はこちらから
《子ども地域支援グループHP》

北海道 CS実践事例集

検索

『地域とともにある学校づくり』推進フォーラム(全国コミュニティ・スクール研究大会 in 三笠)

10月12日(金)に開催される「全国コミュニティ・スクール研究大会in三笠」の二次案内(参加申込)が通知されました。三笠大会は、午前「効果的な導入」「校種間連携」「取組の充実」「高校・特別支援学校におけるコミュニティ・スクール」の4分科会、午後は開会行事の後、東京大学の秋田教授による講演「子どもたちが創る地域の未来 質の高い学びとコミュニティ」とパネルディスカッション「地域の未来を創る子どもを育てるコミュニティ・スクール」です。是非、参加いただき、実践発表や提言、協議の内容を各地域・学校の導入と取組の推進の参考にしてください。

三笠大会の参加申込は文部科学省のホームページからで、7月27日(金)の14時から受付開始で、先着定員500名となり次第、締切となります。

8月の和歌山大会では、分科会の一つが受付開始から2日で定員に達し、締切になっています。申込はお早めに。

【担当から】コミュニティ・スクールの基本的な枠組みは「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」で定められていますが、組織や構成、取組等は各地域・学校の実情に応じて様々です。各地域・学校の取組を伺う中で、学校・地域の関係者で「熟議」を深め、我がまちのコミュニティ・スクールを創り上げていくことが大切であると感じています。(担当：子ども地域支援G 主査 吉村公孝)